

第97回

## 休日の午後のコンサート。

2023.6.11 (日) 14:00開演 東京オペラシティ コンサートホール

Sun. June 11, 2023, 14:00 at Tokyo Opera City Concert Hall

## 〈よくばりヴァイオリン〉 〈Voracious Violin〉

指揮とお話 出口大地 Daichi Deguchi, conductor &amp; speaker

ヴァイオリン 松田理奈\* Lina Matsuda, violin

コンサートマスター 三浦章宏 Akihiro Miura, concertmaster

ハチャトゥリアン：バレエ音楽『ガイエヌ』より「剣の舞」(約3分)

Khachaturian: Sabre Dance from ballet "Gayaneh" (ca. 3 min)

ヴィヴァルディ：『四季』より「春」\* (約10分)

Vivaldi: Spring from The Four Seasons (ca. 10 min)

チャイコフスキー：ヴァイオリン協奏曲より第1楽章\* (約19分)

Tchaikovsky: 1st movement from Violin Concerto (ca. 19 min)

メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲より第3楽章\* (約7分)

Mendelssohn: 3rd movement from Violin Concerto (ca. 7 min)

— 休憩 intermission —

ベートーヴェン：交響曲第5番『運命』(約35分)

Beethoven: Symphony No. 5 (ca. 35 min)

主催：公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団 / Presented by Tokyo Philharmonic Orchestra

## ◎すべてのお客様に、快適にお楽しみいただくために / Dear audience

♪本公演は全席指定です。指定のお席にご着席ください。演奏開始間際の入場の際にはスタッフの案内で入場券記載とは異なる席への着席をお願いすることがございます。♪演奏中のご入場は、固くお断りいたします。楽章間のご入場は楽曲の進行によりスタッフがご案内いたします。入場いただけない場合もございますのでご了承ください。♪曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せず判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬよう、ご配慮いただければ幸いです。♪演奏中に、時計やスマートフォンのアラーム音等が鳴らないよう、いま一度ご確認ください。♪演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございますので、ご配慮くださいますようお願いいたします。

♪ All seats are reserved. Late admittance will be refused during the live performance. If you enter or reenter just before the concert or between movements, we may escort you to a seat different from the one to which you were originally assigned. ♪ Exiting during the performance will be tolerated. If you do not feel well, please exit or enter as you need. However, please mind the other listeners so that they will be minimally disturbed. ♪ Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during performance. ♪ Hold applause please. Please cherish the "afterglow" at the end of each piece for a moment before your applause.

## 出演者プロフィール

### 指揮とお話 **出口大地**

Daichi Deguchi, conductor & speaker

第17回ハチャトゥリアン国際コンクール指揮部門にて日本人初の優勝。クーセヴィツキー国際指揮者コンクール最高位及びオーケストラ賞受賞。関西学院大学、東京音楽大学指揮科にて学び、2023年ハンスアイスラー音楽大学ベルリン指揮科修士課程修了。ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団、アルメニア国立交響楽団等の指揮を経て、東京フィルハーモニー交響楽団定期演奏会で日本デビュー。広上淳一、クリスティアン・エーヴァルト、パーヴォ・ヤルヴィ、ドナルド・ラニクルズ、井上道義、沼尻竜典、下野竜也各氏らの薫陶を受け、ベルリン放送交響楽団ではヴラディーミル・ユロフスキ氏のアシスタントを務めた。

公式ホームページ <https://daichideguchi.wixsite.com/daichideguchi>



©hiro.pberg\_berlin

### ヴァイオリン **松田理奈**

Lina Matsuda, violin

桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコースにて研鑽を積み、2006年ドイツ・ニュルンベルク音楽大学に編入。2007年、同大学を首席にて卒業。2001年、第10回日本モーツァルト音楽コンクールヴァイオリン部門第1位(同コンクール史上最年少優勝)。2002年にはトッパンホールにて「16才のイザイ弾き」というテーマでソロリサイタル開催。2007年、サラサーテ国際コンクールにてディプロマ入賞。これまでに国内の主要オーケストラと多数共演するほか、ハンガリー国立フィル、ヤナーチェク・フィル、スーク室内オーケストラ、ベトナム響など数々の楽団と共演。2010年11月にはイザイの無伴奏ヴァイオリン・ソナタを全曲収録した『YSAÏE』をリリースし「レコード芸術」誌上にて特選盤に選ばれた。2018年5月ブラームスとフランクのソナタをピアニスト清水和音氏と収録した5枚目のアルバムをリリース。

オフィシャルホームページ <https://linamatsuda.com>



©Akira Muto

## プログラム・ノート

解説=柴田克彦

## 人気曲がズラリと揃った超名曲コンサート

〈よくばりヴァイオリン〉と題された今回の「休日の午後のコンサート」は、ヴァイオリン協奏曲の美味しい部分をまとめて味わえる、意外に稀少なプログラム。『四季』に『運命』、メンコン、チャイコン、「剣の舞」と、クラシック音楽きっての人気曲がズラリ揃った超名曲コンサートでもあります。

ヴァイオリン独奏は、確かな技巧で表情豊かな演奏を聴かせる松田理奈。彼女は今回の3つの協奏曲(実はどれも高い技術とタフさが必要な難曲です)の全曲を1公演で弾いているほどの実力者ですから、その鮮やかで艶やかな調べに大きな期待が集まります。指揮は、2022年7月の東京フィル定期演奏会で快演を展開した出口大地。ハチャウリアン国際コンクールで優勝した彼の「剣の舞」や、劇的な『運命』交響曲の表現も聴きものとなります。

ヴァイオリンの妙技にダイナミックなオーケストラ・サウンド……ここは、おなじみのメロディを存分に満喫しましょう。



昨年東京フィルでデビューを果たしたマエストロ出口による、ダイナミックな指揮ととっておきのお話をお楽しみください

©K.Miura

## 木琴と管楽器が駆け抜ける激しいリズムでおなじみの人気曲

幕開けは、旧ソヴィエト連邦の民族主義音楽をリードした  
**アラム・ハチャトゥリアン**(1903-1978)の**バレエ音楽『ガイーヌ』**より「**剣の舞**」。トルコ近くに位置するアルメニア人だったハチャトゥリアンは、その民族音楽にもとづく、リズムカルで生命力溢れる作品を残しました。1942年に作曲された『ガイーヌ』は、彼の代表作のひとつ。アルメニアの山あいのコルホーズ(ソ連時代の集団農場)で働く若い女性ガイーヌを主人公にしたバレエです。その中でも有名な「剣の舞」は、勇ましいクルド族が戦いに向かう前に踊る音楽。激しいリズムが刻まれる中、木琴のソロに管楽器がこたえ、東洋風のメロディが現れた後、熱く盛り上がっていきます。



## 春の喜びを描いたバロック音楽の代名詞的作品

ここからは古今のヴァイオリン協奏曲を代表する作品が3つ続きます。

まずは、イタリア・バロック音楽の大家**アントニオ・ヴィヴァルディ**(1678-1741)の『**四季**』より「**春**」。『四季』は、作曲者が残した500を超える協奏曲の中でも特に知られた作品で、“バロック音楽の代名詞”と称されています。全体はヴァイオリン協奏曲が4曲続く形ですが、本来は1725年に出版された協奏曲集『和声と創意への試み Op.8』全12曲中の第1～4曲にあたります。これらは四季の自然や人間の営みを描いた音楽で、風や動物の鳴き声等々の状況を綴った「ソネット」(定型抒情詩)が添えられ、それに則した音楽が展開されます。以下、〈 〉内はソネットの大意です。



第1曲「春」は、春の到来の喜びを描いた明るい音楽。**第1楽章：アレグロ**〈春がきた。小鳥たちも陽気に歌う。嵐が襲い、静まると再び小鳥たちが歌う〉、**第2楽章：ラルゴ**〈花ざかりの牧場。羊飼いが犬を傍らにまどろむ〉、**第**



現在はトルコ共和国内にあるが、かつてはアルメニア人の多くが住んでいた地域に位置し、アルメニア民族の心のふるさととされるアララト山 ©stock.adobe.com

**3楽章：アレグロ「田園舞曲」**〈輝く春空のもと、ニンフと羊飼いたちが陽気な調べに合わせて踊る〉が続きます。

## 民族的情緒溢れるチャイコフスキーならではの旋律美

おつぎは、ロシア最大の作曲家**ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー**(1840-1893)の**ヴァイオリン協奏曲より第1楽章**。1877年夏に結婚し、直後に破綻したチャイコフスキーは、10月から翌年4月までヨーロッパで静養します。本作はその際の1878年3～4月にスイスのクラランで書かれた作品。チャイコフスキーはロシアの第一人者アウアーに初演を依頼するも、「演奏不能」との理由で拒否されます。しかし同国のドイツ系奏者ブロズキーが尽力し、1881年にウィーンで初演されました。当初の評判は散々でしたが、ブロズキーが積極的に紹介し続けた結果、人気を獲得し、遂にはアウアーも演奏するようになりました。曲は、情熱と哀愁に充ちた、協奏曲としては民族的情緒が濃い音楽。チャイコフスキーならではの旋律美やヴァイオリンの華やかな技巧が際立っています。



第1楽章は、アレグロ・モデラート—モデラート・アッサイ。2つの主題を中心に華やかさと哀感が交錯しながら進行し、技巧的なソロが縦横に展開されます。

## ヴァイオリンの技巧を駆使した華麗で軽快な第3楽章

協奏曲の最後は、ドイツ初期ロマン派の代表格**フェリックス・メンデルスゾーン**(1809-1847)の**ヴァイオリン協奏曲より第3楽章**。メンデルスゾーンは1838年、自身常任指揮者を務めるライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団のコンサートマスターで友人のダーヴィトのために構想を開始しました。しかし創作は難航。ダーヴィトの助言を仰ぎながら、1844年ようやく完成し、翌年初演されました。曲は、古典的な均整美と甘美なロマンティシズムが溶け合った名品。



フェルディナント・  
ダーヴィト

全3楽章が切れ目なく演奏される点が特徴で、第1楽章冒頭の旋律も有名ですが、今回は華やかな終楽章が演奏されます。

第3楽章は、アレグレット・ノン・トロppo—アレグロ・モルト・ヴィヴァーチェ。短い経過部から澆刺たる2つの主題を軸にした主部へ移り、ヴァイオリンの技巧を駆使した華麗な音楽がテンポよく繰り広げられます。

## 「ジャジャジャ・ジャー」はまさにクラシック音楽の象徴

後半は、ドイツに生まれウィーンで活躍した古典派の巨匠**ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン**(1770-1827)の**交響曲第5番『運命』**。インパクトのある出だしで知られた、クラシック音楽の象徴ともいえる作品です。“傑作の森”と呼ばれる創作中期の1808年に、対照的な曲調の第6番『田園』と相前後して作曲され、12月に2曲併せて初演されました。なお、曲を特徴付ける「ジャジャジャ・



ジャー」の4音＝「運命動機」を緊密に練り上げるまでには、かなりの推敲が重ねられた模様。また『運命』の愛称は、「ベートーヴェンが冒頭の4音を『運命はこのようにして扉を叩く』と述べた」という弟子シンドラーが伝える逸話に由来していますが、彼の伝える話は捏造が多く、これも信憑性は低いとされています。

ベートーヴェンは、9つの交響曲の1曲ごとに新機軸を打ち出しましたが、本作はそれがとりわけ顕著に示されています。全体としては、「ハ短調の第1楽章からハ長調の第4楽章へ」、すなわち「闘争から勝利へ」「暗から明へ」の構図が大きな特徴。さらには、旋律ではなく4音の動機を軸に据えた稀有の発想、その「運命動機」が全楽章に登場する統一性の高い構成、第3楽章の最後を盛り上げたまま第4楽章に入る斬新な手法、交響曲史上初となるピッコロ、コントラファゴット、トロンボーンの使用(すべて第4楽章のみ)など、独創的な要素が満載されています。

**第1楽章：アレグロ・コン・ブリオ。**「運命動機」の連続によって緻密に構築されていく、緊迫感に充ちた楽章。

**第2楽章：アンダンテ・コン・モート。**伸びやかな第1主題と上行する第2主題(伴奏リズムが「運命動機」)に基づく自由な変奏曲。美しくも雄大な音楽です。

**第3楽章：アレグロ。**いわゆるスケルツォの楽章。沸き出るような低音の主題と、ホルンで出される「運命動機」を中心とした主部に、低音弦楽器が激しく動く中間部が挟まれます。最後は不気味な音楽が徐々に盛り上がり、頂点で第4楽章へ移ります。

**第4楽章：アレグロ。**輝かしい凱歌のような第1主題で開始。滑るような第2主題をまじえながら、果てしなく高揚していきます。

しばた・かつひこ(音楽ライター)／音楽マネージメント勤務を経て、フリーランスの音楽ライター、評論家、編集者となる。雑誌、公演プログラム、Web、宣伝媒体、CDブックレット等への寄稿、プログラム等の編集業務のほか、一般向けの講演や講座も行うなど、幅広く活動中。著書に「山本直純と小澤征爾」(朝日新書)、「吹奏楽編曲されているクラシック名曲集」(音楽之友社)。